



題新銳工事號

○

本號に收載せる南滿洲鐵道會社の大連港に於ける甘井子石炭積込棧橋工事並にその機械設備は、規模の宏大にして且つ設備の完全なる點、從つて高能率なることに於て、彼の北米ノーフォーク市に於けるものより、幾多の特長を有するものにして、まさに世界的の最新工事と稱すべきものである。

○

横濱港のブレスド・シリンダー工事は、海底の不良地盤に對する特種工事にして、其設計に於て施工法に於て、内外港灣工事中最新鋭を誇り得る代表的工事である。

○

客年十月末百二十八萬の工費を以て竣功を告げたる櫻宮橋は、その橋梁型式に於て、また徑間長に於ても東都永代橋を凌ぐ大橋梁。たゞに淀川筋に偉觀を添へたるのみならず、我邦架橋技術の進歩を證せるものと云ふべきである。

○

日本海電氣小川口第三發電所は我國最初の貯水に依る水力補給發電所にして本州最大の高落差を有し、遠隔管理制御装置並に遠隔計測装置に依り約20哩を隔つる本社制御所より諸機械を自動制御し得る方式を初めて採用したる點等に於て斯界の注意を惹きたるもの、工事の詳細はその豊富なる寫眞によりて知り得やう。

○

東京市水道局の山口貯水池工事は、内地に於ては他に類を見ざる一大工事に於て、最新の諸機械が利用され、將に工事の眞最中である。

○

新議院建築工事の近況寫眞は、我國最大の國費を以て建設しつゝある唯一の大建築工事の進況を物語るものである。

○

眞鍋氏のウォークリーターの發明に至つては、實にわが混凝土工事界に一大貢獻を齎したもので、本機に對しては商工省に於ても既に發明獎勵金の下附を決定したとのことである。土木用機械としては異例の名譽と云はねはならぬ。

